

テールアルメ工法

NETIS掲載終了
QS-060012-VE

コンクリートスキンに取り付けられた補強材＝帯状の鋼材リップ）によって土を補強して構築される擁壁です。部材数が少なくシンプルな構造であるため、施工が簡易に出来ます。補強材が自由に配置出来るため、函渠や斜めのボックス等の取り合いへの対応が可能です。

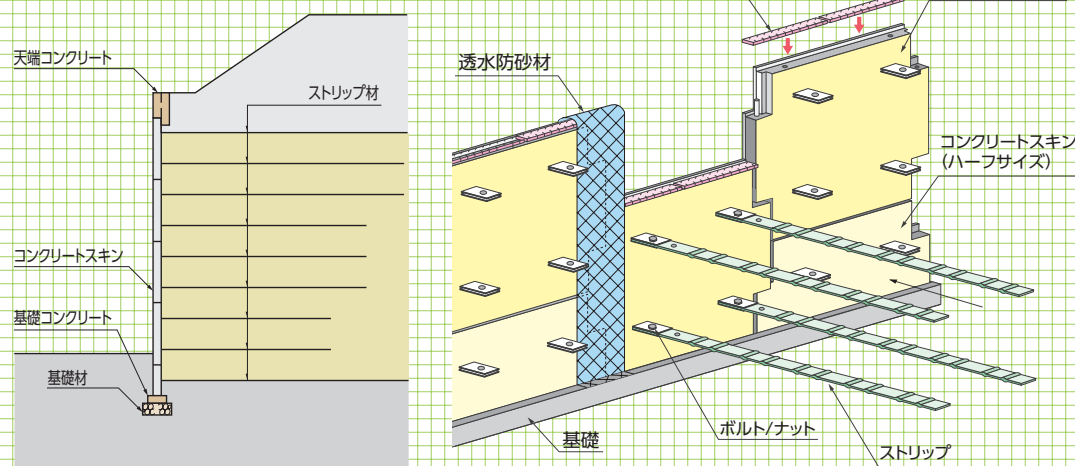
●特長

- 1.最小限の用地幅で施工できます
垂直盛土の為、用地の有効利用ができます。
- 2.高い垂直盛土ができます
従来の擁壁にくらべ低コストで高い垂直盛土が可能です。
- 3.短期間で施工できます
プレハブ工法の為、工期短縮が可能です。
- 4.特殊技術は不要です
規格材の組合せの為、熟練工や特殊技術は不要です。
- 5.部材の品質管理は安心です
日本テールアルメ協会認定工場で製作します。
- 6.比較的やわらかい地盤でも施工できます
基礎地盤への荷重が等分布で作用します。
- 7.美しいデザインができます
環境に合わせたデザインスキンの製作ができます。
- 8.宅地にも使用できるタイプもあります
宅造法認定品、建築基準法認定品です。

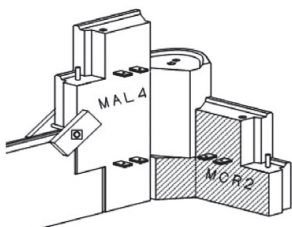


標準敷設図

■標準敷設図



マルチコーナースキン



公称寸法:850×1500(750)×140



内曲り



外曲り

アクアテール35〈河川・護岸用テールアルメ工法〉

NETIS掲載終了
CG-100020-VR

アクアテール35は、壁厚を350mmにし、河川砂防技術基準に適應した河川・護岸用のテールアルメ工法です。

●特長

1. 35cmの壁厚で流水に対する高い安全性を実現

パネル形状は矩形とし、壁厚は35cm。従来パネル(十字形)と比べ、重量が2.4倍となり、流水に対する高い安定性を実現します。

2. 漂流物の衝突に対しても高い安全性を確認

直径1.0m×長さ10mの流木が流速10m/秒(推定)で衝突しても所定の安定性が確保されていることが確認されています。(H240216通達道路橋示方書に則ります)

3. 壁面材パネルの耐衝撃性能も十分に確保

洪水時や土石流の発生時、流木や歴が衝突した場合を想定し、実物壁面材を用いた重錘落下実験を実施し十分な耐衝撃性を確認しています。

4. 浸水状態における水辺補強土壁の安全性を確認

実物実験を実施し、浸水状態における補強材引抜き試験、土圧の計測、補強材のひずみ測定などの確認をしています。



水平目地材



壁面材パネル



壁厚は35cm。壁面材の鉄筋被り90cm。塩害対策が必要な地域への適用も可能。

透水防砂剤



補強材/幅広ストリップ



規格:一般構造用圧(JIS G3101 SS400)
記号:SS400に亜鉛メッキを施したもの
(溶融亜鉛メッキ JIS H8641に示すHDZ50)

